

あいうえおだよい

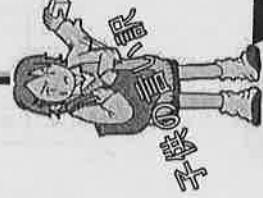
平成29年9月号

敦賀警察署 生活安全課

特集

警察で関わった少年と保護者

～先日対応した少年の万引き事件から考えたいと思います～



今日、私はお菓子やおにぎりを万引きしました。今までにも5～6回万引きして見つかってないし、今回も大丈夫だと思ったけれど、見つかっちゃった。万引きすることは悪いことだと知っていたけど、お腹がすいたから盗つた。謝ったら許してもらえたと思うんだけど、警察に連れて行かれて万引きした理由を聞かれた。そのうち、警察に親も来た。こんなことになるとは思わなかつた。

万引きは「ゲーム」ではありません。リセットボタンで「なかったこと」にはできないですね。子供であっても謝つて許されることはあります。

警察から子供が万引きしたとの連絡を受け、子供をむかえに警察に行きました。とてもショックでした。
警察からの帰り道、子供が泣いていたので、この子もショックを受けていいだろうと、万引きした理由を聞きませんでした。

翌日、万引きをしたお店に、私が1人で謝罪に行きました。



家庭でのコミュニケーションが不足しています
子供の気持ちをわかっていますか?
ます。

子供の問題行動には必ず理由があります。これをきっかけに話を聞くかないと何も解決せせず、指導もうまく届きません。親は子供に対して責任があります。子供に気を使つて、結果、逃げてしまふかもしれません。

謝罪には子供も連れて行ってほしいところです。謝罪する親の背中を見せることで子供も自身の行動を反省する機会になります。

子供の交友関係、行動範囲、心情など、日頃からの関わり方が大事です。また、善悪について話をすることも大事です。わかっているようでわかっていない子供も多いです。

◆まとめ◆



普段から暖かい会話があり、きちんと善悪の判断を教えている「親」のいる家庭は「犯罪」とは縁遠いようです。

子供は「親」の姿をよく見ています。大人が自らの行動を振り返り、子供の「目標」であり続けたいですね。

そして、起きてしまったことは起きてしまったこととして、それを「機会」にするべきだと思います。